

いのち輝くいつせの里

前山小学校 校長だより

令和6年1月20日

文責 植木政行

『前山小学校の思い出』 前山地区自治振興会 副会長 荻野茂和

小学校時代のことは、この年になっても昨日のことに覚えていることがいくつもあります。

小学校に入学したのは、今から遡ること67年前の1957年（昭和32年）です。

入学式の翌日、教室でやんちゃして担任の山田先生に頭をコツンとされて泣きべそをかいたこと。2年生の時、作文に先生のが好きですと書き、友だちにからかわれたこと。少し障がいのある同級生にやさしく接して先生にほめられたこと。休み時間には講堂で、上級生や下級生、先生も加わって本気で取っ組み合いをしたこと。数え上げたらきりがなくらいです。

中学や高校と違い、担任の先生から全教科を教わったので、より先生との距離が近かったように思います。

学校行事の最高の思い出は、京都への修学旅行。家が商売をしていたためお店の休日がなく、家族旅行は一回も行ったことがなかったため、この修学旅行が私にとっては初めての旅行でした。銀閣寺や金閣寺、清水寺を巡ったこと、夕方は新京極でお土産を買ったこと、宿泊先の「いろは旅館」の美味しい食事、開放的な大浴場でこけながら走りまわったこと、夜寝る時に枕投げをして騒いで先生に叱られたこと、今となっては懐かしい思い出です。

後年、京都に住むようになって、通勤時に三条通りにあった「いろは旅館」の前を通る度に、楽しかった修学旅行のことをよく思い出したものです。

他の行事、毎年の運動会や学芸会について、運動会は走ることが好きだったので、個人競走、地区対抗リレーやクラス対抗リレーでがんばり、声をからして応援しました。お昼休みは家族と一緒に弁当を食べ、母親が作ってくれた巻きずしが楽しみでした。

学芸会では、セリフの多い役につこうと先生にアピールしましたが、いつも脇役で悔しい思いもしました。

学習面は苦い思い出ばかり。夏休みの宿題をせず、姉に叱られて泣きながらやりました。習字や算盤塾にも通いましたが、全く上達しませんでした。

小学校での6年間は遊び中心の毎日でした。時にはケンカをして、泣かしたり泣かされたり、今でいう「いじめ」もあったのかもしれませんが、そんなことにも負けない多少でも強い人間に皆がなっていったのではないかと思います。

閉校は終わりではなく、新しい時代へのスタートだと思えます。今の前山っ子の限りない成長を願い、またこれから厳しくなるであろう地域の諸々の課題に対して、前山住民の一人として取り組んでいければと思います。



1年生頃 前にいるのが私



5年生の時に給食開始



卒業記念写真

前山小学校の児童のみなさん、そして前山地区のみなさん、こんにちは！

私は、前山小学校の昭和55年度卒業生で大塚貴裕と申します。

高校卒業後に前山を離れ、現在は大阪の富田林市というところに住み、南海電気鉄道(株)という、大阪の難波と和歌山・高野山や関西空港等を結ぶ鉄道会社に勤めております。

今回、植木校長先生とのご縁をいただき、母校が竹田小学校と統合になること、その統合に向けたプロジェクトで卒業生が前山小学校の思い出を綴られていることを伺いました。そして、先生からのご依頼を受け、前山に何も貢献できていない自分にはおこがましいことと思いつつも、これが少しでも恩返しになればと思い、寄稿させていただきました。

国鉄職員の子ども対象の林間学校(5年生:神鍋山)



私が前山を離れてから36年が経ち、人生の2/3を占めるまでになってしまいました。しかし、幼少期から多感な思春期を前山で過ごしたことは、自分という人格を作る上でかけがえのない貴重な経験だったと、今になって改めて強く感じています。

私が小学生の頃は、田植えも稲刈りも機械化されておらず、近所の方々総出でやっていたような記憶が残っています。初夏には周囲が真っ白になるくらいの農薬散布(風向き次第で家に入ってくることも!)もありましたが、川での魚とりや山でのカブトムシ取りにプール水泳をしたり、トウモロコシやスイカを食べたりと夏休みは毎日がイベントのような日々でした。冬には雪が降っても半ズボンで過ごしていた(私は途中でへこたれてましたが。。汗)り、雪合戦や農薬の空袋をソリ代わりに滑ったり。そんな自然に囲まれた中で伸び伸びと過ごす経験は、当時はそれしかない世界の中での当たり前風景でしたが、コンクリートやビルの中で過ごす時間が長くなるとともに、またそうした生活をした人が殆ど周りにいないことに気づいた時、とても貴重で大事な思い出に代わってきました。



着替えてこれからプール水泳

そして、そんな時間を、ずっと同じ同級生や友達と、ケンカしたり仲直りしたり、競いあったり助けあったりしながら共に過ごした経験は、1つの会社の中で上司・部下・同僚と仕事をする上でも生かされるものでした。よく「田舎は人間関係が煩わしい」というようなことをいう人が居ますが、それはどんな場所や組織でも全く同じですし、私がその中でみんなが納得する結論を出すことや、バランスを取りながら1つの方向に向かうように意見をすり合わせていくことに割と長けていたのは、この頃の経験があったからだと思っています。

なんて偉そうなことを言ってますが、私は小学校では足も遅く、スポーツもできず、思い通りにならないとすぐに泣く、いわゆる弱虫君でした。そんな私が、同級生や近所の友達や大人、先生に受け入れてもらい、助けてもらったことで、無事に成長でき、また自分なりに努力してきたことで、今では売上高2,500億円、従業員9,000人の会社の責任ある要職に就くまでになりました。幼少期から思春期までの大事な期間、育ててくれた前山小学校や前山地区には感謝しかありません。

時代は少しずつ、時には急に変わっていきます。私の頃は、仕事や物質的な豊かさ、成功の機会を求めて人が地方から都会へ集まっていく時代でしたし、今もその流れは大きくは変わっていません。しかし、ネットやSNSが飛躍的に広がり、今ではどこにいても欲しいモノはすぐ手に入るし、世界中の情報も簡単に伝わり伝えられるようになっていきます。これからの時代で大事になってくるのは、たくさんのモノを持っていることやどこにいるかではなく、他にない・ここにしかないモノやコトを持つことです。それも、関西や日本ではなく、世界から見て。

卒業生として小学校が統合されることには寂しさを感じますが、これも一つの変化です。新しい世界、新しい出会いが待っています。在校生の皆さんにとって、統合がそのような機会になることを切にお祈りしています。



昭和55年度 前山小学校卒業 昭和56年3月